

研修資料

平成 29 年度「ふるさと支援隊」大豆栽培要領 (H29.7.1)

1 目的 大東文化大学生の持つ行動力、知識や新しい視点についての加工品開発に向けた大豆栽培支援など。

事業主体 大東文化大学国際関係学部

3 作業期間 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末

4 支援内容 播種への準備作業から収穫作業までの技術支援

5 大豆栽培の農作業手順について

①大豆栽培に適した土壌条件

最適 pH 微酸性 6.0～6.5 大豆・枝豆など

- ・今年度の土壌条件としては、畑作への耕耘済み水田、前作水稻作付け地である
- ・作付け面積約 400 m²程度

※豊かな実りは土づくりが決め手

- ・一般的にはハウレンソウ 中性で生育 6.5～7.0 程度
- ・水稻・キャベツ・大根 弱酸性 5.5～6.5 程度
- ・お茶 酸性 5.0～5.5 程度

②作業手順(なにから始めるか)

畑作り・耕耘→施肥・播種→除草→中耕・培土→病害虫防除→収穫刈取り→乾燥→脱穀
→選別

※耕耘は細かくなるように丁寧なすること

③播種

品種

- ・主として宇宙大豆を予定している
- ・他の品種としては・鳩山在来(黒大豆)・青山在来・丹波黒豆などを
- ・播種の時期
- ・品種によって多少播種時期が異なる(埼玉県の奨励品種のエンレイ、タチナガハなどは 6 月下旬～7 月上旬)

畝幅と株間

株間 30 cm程度(種と種の間)・畝間 100 cm程度(生育途中で中耕管理機を使用するので畝幅を考慮し播種する)

肥料

化成肥料 10 a 当たり 20 kg程度(大豆は根粒窒素固定能力が高い・前作物によっては残肥もあり散布量については考慮する必要あり)

追肥

必要に応じ適宜する

種子の準備

病害中に罹っていないもの

ハトなどの食害対策

発芽途中での食害対策が必要である。特に野兎など要注意

雑草対策

播種後除草剤を全面散布 薬剤としてはラッソー乳剤、ロロックスの混合剤

※播種適期が梅雨と重なり湿害があり、苗立ちがうまくいけば、その大豆作りは半分以上成功したと言える位重要な作業である

④生育中の管理

中耕

目的は畝間の除草

培土

目的は倒伏防止・排水

病虫害の防除

病虫害防除は圃場をよく観察し発生状況に応じて適宜行う。天候不順により年ごとに病虫害の発生が異なることが多い

(基本的には常に圃場を観察し、捕殺することが望ましい)

雑草の除去

コンバイン収穫における収穫ロス、収穫量と品質を低下する

※日常の観察が大事である

⑤収穫

刈取りの適期

茎が十分乾いてから、茎が「ポキッ」折れるくらいになってから

刈取りの方法

剪定バサミ

乾燥

しまだて方式

取り込み

しまだてた大豆を適当な大きさに梱包して脱穀場所へ移動
(素縄を使用すると便利)

※葉が落葉し、大豆の莢が大部分変色し、茎全体が乾燥 させることが大事

⑥脱穀

方法

昔ながらの方法でクルリ棒などを使用して

※地域で使用していた道具などを使用しての脱穀作業

⑦選別

機械選別

唐箕・目の粗い大豆専用フルイなどを使用

手選別

一粒一粒目視で選り分ける

⑧枝豆

枝豆については、熟期の状況により適宜収穫対応する

えだ豆ジュース・えだ豆パンなどの加工品へのチャレンジ

※まとめとして

- 1 元気づく農業を目指したい
- 2 地域が参画できる企業とのタイアップ
- 3 地域としての話題作りと夢のある農業を目指し楽しく
- 4 遊農で人生長く楽しく所得を・・・・
- 5 大学としての活動内容の3柱に向け支援していく